

平均的な農家で、私たちが見学した胡椒畑には、190キロが植えられており、平均して4日に一回としても4日間に4.7回返さなければならないことになります。ため池までの距離は150メートルはあったのでしょうか。なかには1キロ以上運ぶ農家もあるそうです。家族皆で水運びをするわけではありません。

●収穫：  
1本（亩2本）で1.5～3キロの収穫があります。しかし98年の収穫が、250キロ、99年は、150キロ、今年の見通しは、100キロと収穫が減少しています。天候のせいもあるでしょうが、水の供給が不足してきているためです。

●胡椒の質：  
色とつや、大きさ、重さ、丸さの良し悪しで、1～3の等級が決まります。

●値段：  
仲買人に売る値段は、3～5月の収穫期には、最上質の胡椒で、1キロが、4.7ドルで、胡椒がなくなる7～9月には値上がりして8ドルだそうです。

●農民の収入：  
今年の収穫が、100キロだと100×4.7≈500ドル 5万円ほどです。派ぐましい水運びの重労働の果実です。これでもカンボジアの平均年取よりいいのです。

その後、カンボットの事務所でリンダさんと再び話し合い、わかちあいプロジェクトとして、仲買人より50%プラスして、300キロの胡椒を購入すること、2000ドルをUCCに支援し、農民のためのボツの貸し付け資金とすることにしました。



1年の任期を終えて帰国するまえ  
支援で購入したペットの患者さんと一緒に

## 1年間を振り返って

金子純枝

やはり言葉の壁をよぶることはできませんでしたが、それでも自分なりにどんなことを感じたかを書きたいと思います。1年前までのパレスチナに対する私のイメージは、テロがあり、インティファダ（一念発起と訳され、パレスチナの居住区に侵入したユダヤ人に集団で石を投げ、時には殺しあうこともあったが、1994年以降は起きているない。）がある所、そしてイスラエルと常に問題がある危険な場所という感じでした。

パレスチナの人々は避難民になってから4世代になっている人々もたくさんいます。パレスチナ人もイスラエル人も一般市民は誰一人として、平和を願わない人はいません。パレスチナの人々の中にはいろいろな方がいて、比較的学歴の方々は物事の様々な考え方の視野が広い気がしました。どんな世界でも弱者弱者があるのですが、今のパレスチナ・イスラエルをみる時、頭をこの関係が成り立っている気がしてなりません。エルサレム市内を歩くと、必ず、イスラエル兵の姿を目にします。そして肩には必ず機関銃を下げている。確かに、これはイスラエル兵がいるからこそ治安が保たれているという意見もありました。あまりにもこの状態に慣れすぎってしまったのかも知れませんが、やはり異常事態と言わなければならないでしょう。

このようなことをはじめとして、いろいろな面で強者＝イスラエル、弱者＝パレスチナという不平等を感じてははられないませんでした。神の目から見れば、みんな同じ人間なのです。理想化しすぎているのかも知れませんが、必ずお互いの差異をみとめて共生している日が増えていきます。それは、パレスチナ・イスラエルの若者たちが、政治・宗教・民族の違いを越えて、お互いを愛と思いやりをも

って受け入れ合うということに関わってくるのです。パレスチナ・イスラエル間ともに、そうした考え方をを持った人々が少いしつづつではありますが増えていくことは確かです。パレスチナとイスラエルの和平の実現される日の日も早いことを願わないでほしいません。

そしてまた、パレスチナとイスラエルの問題は、遠く離れた日本のクリスチャンの私たちひとりひとりにも、信仰は何か、イエス様が望んでおられるクリスチャンのあり方は何かを常に問いつけているのではないのでしょうか。

帰国にさいして  
LWFの総責任者のMr.キプルスをはじめ、病院のスタッフの方々と、日本へ帰国する日に、今まではとくにパレスチナの人々のために働いてくれてどうもありがとう。また、パレスチナに来る機会があったら、ぜひ病院を訪ねてほしい。そして、自分たちのことを忘れないでほしいと言ってくれ、小さな、足りない心遣いではありましたが、この1年間頑張ってきて本当に良かったと思えました。

イスラエルからの出国は、とても大変でした。私はパレスチナ側で奉仕していたため、覚悟はしていましたが、別室のセキュリティチェックで荷物の中身を全部取り出して調べられました。でも、飛行機の出発時間にはきちんと間に合っただけで、乗り継ぎのタイバンのコンコウでは10時間の市内観光も許され、4月15日、無事に日本へ帰国しました。



種の記録

## インド、オリッサ地方サイクロン被害者支援

昨年7千人の命を奪った被害地域の救済を「地球市民財団」の支援をいただき、現地NGOが50家族を対象に洪水後の食料生産と復旧プロジェクトを実施しています。日本からは学生ボランティアが1月出発しました。

# わかちあいプロジェクト募金

- ケニア、タンザニア難民救済
- カンボジア教育支援
- その他の支援

## 2000年計画

わかちあいプロジェクトの活動を開始して8年になります。

ケニア、タンザニアの難民キャンプには50名近い青年がボランティアとして参加してきました。その参加者の中から、高村さとと中島さんが、今年からスタッフとして加わり、難民キャンプと事務局で責任をもって活動に取り組みます。

カクマ難民キャンプに常駐して支援活動にあたるためには、車や通信手段、事務所の借り上げなどの予算が必要です。

何卒、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

代表 松木 傑

## 募金の目的と目標

- ケニア、タンザニア難民救済  
カクマ難民キャンプへのスタッフ派遣  
ホンディア汚染、古紙燃料 600万円
- カンボジア教育支援  
小学校の建築費 300万円
- その他のプロジェクト 100万円

募金目標額 1000万円

## 募金の送金先

郵便振替口座  
わかちあいプロジェクト募金  
00130-7-762258



## わかちあいプロジェクト会計報告 (99.4.1-2000.3.31)

収入の部	支出の部		
前年度繰越し	6,251,181	事業支出（仕入れほか）	21,188,372
前年度収入（コーヒ、紅茶売上げ）	29,268,157	難民支援（古着、肉御飯など）	7,199,952
募金、参加費	11,082,259	カンボジア学校建設	1,888,946
外務省NGO補助金	5,682,736	エリトリア支援（絵本）	1,035,607
その他	59,833	パレスチナ支援（看護婦派遣とペットの購入）	4,575,508
		インドサイクロン他	404,875
		活動費	1,720,207
		事務管理費	6,561,401
		次年度繰越し	4,769,298
合計	52,344,166	合計	52,344,166

○ワークキャンプの参加費用も支援の項にて支出

## お知らせ

●わかちあいプロジェクト例会  
8月を除く毎月第3火曜日、午後7時より例会を開いています。歓迎いたします。どうぞご出席ください。

●8月から、高村聡明さんがカクマ難民キャンプにわかちあいのスタッフとして駐在し、図書館建設をはじめ、難民の生活改善のプロジェクトに従事します。ご支援ください。

●わかちあい・オンライン！  
ホームページからの注文も可能です。  
メール：wp@wakachiai.com  
Homepage：http://www.wakachiai.com

●5月から、事務局のスタッフとして中島佳樹さんが新しく加わり、月曜から金曜日までわかちあい事務局で働いています。遊びに立ち寄ってください。



中島さんと  
修学旅行で事務所を訪ねた  
仙台市立第一中学校の  
岩山さん、庄子さん、  
村岡さん、八木さん

発行所（年2回発行）わかちあいプロジェクト 130-0022 東京都墨田区江東橋5-3-1 電話：03-3634-7809 FAX：03-3634-7808  
編集者 松木 傑 郵便振替口座： わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258（募金用）  
わかちあいプロジェクト 00180-6-758331（代金支払用）

